

錦江に生きる

じゅうななにん目

ひめがさこ
姫ヶ迫

こういち
浩一さん

(上柴立自治会)

▼教え子たちと大晦日に
(エクアドルの厄払い)



▲我が子と遊んでいるように
やさしく車を修理する浩一さん



このコーナーでは、町内で
これから根を張っていこうと
頑張っている若者を中心に紹
介していきます。
第17回目は、上柴立自治会
の姫ヶ迫浩一さんです。

「日本の裏側で育んだ恋。」田代地区で自動車整備工場を営む姫ヶ迫
浩一さん・明子さん夫妻の話である。

浩一さんは高校卒業後、鹿児島市内の会社で整備士の仕事をしてい
た。しかし、29歳の時、「自分の人生これでいいのか？」と疑問を感じ
始める。そして浩一さんのとった行動は、青年海外協力隊に参加し途上
国に自動車整備の技術を伝えることだった。訓練などの準備期間1年
を経て2年間、南米エクアドルの発展に寄与した。不安はなかったで
すか。と尋ねると、「不安はまったくなかった。でも...」でも？渡航の日
涙する両親の姿を見て自分勝手な行動だったかなと少し後悔したらし
い。そして、エクアドルで運命的な出会いが待っていた。同じ協力隊
員としてエクアドルにいた妻・明子さんとお互いのホストファミリー
の紹介で知り合ったのだ。運命的なものを感じる出会い。二人はエク
アドルの為に尽力しながら愛を育んだ。そして帰国後、浩一さんは美
家の自転車屋を自動車整備工場にして、一年後に栃木から明子さんを
迎えた。

現在の浩一さんは、消防団に上柴立棒踊り保存会と地元に着着した
活動を続けている。消防団については「たまされた。」と笑ったが、「消
防車庫の横に工場を構える個人経営の自動車整備士がいるんだから団
員になるのは必然。」とも話した。

浩一さんは、近隣の小中学校からエクアドルの経験を基にした講演
依頼も後を絶たない。講演の内容を問うと、エクアドルの話などを中
心にしながら子供たちへ視野を広げて欲しい。と願いながら話すら
しい。難しくはないですかと尋ねると、「エクアドルで教えることの難し
面白さを知った。そして相手の立場になって考える。相手を思いやる
気持ちで学んだ。だから子供たちに自分の経験を話すのは面白い。そ
して子供たちが何かを得てくれたら言うことない。」と笑った。そして
最後に「子供たちが井の中の蛙になって欲しくないんだ。広い世界、上
には上が絶対いる。だから慢心せず、失望せず上を目指して欲しい。
その手助けを自分がしたいし自分もそうありたい。」と熱く語った。
浩一さんは、田代の地でさらに高みを目指す。

錦江町

おもいで写真館

昭和38年
神川橋の渡り始め

▶写真のご協力を
お願いします。◀

「錦江町思ひ出写真館」に掲載
する写真を募集します。

撮影時期・場所・状況等を
付けて、役場企画課へ持ち込
むか郵送ください。

お借りした写真は責任を持
ってお返しします。



▲建設中の
神川橋